



# 宗四小だより

開校40周年

新たな歴史と伝統をつくる

1月号

志木市立宗岡第四小学校

志木市上宗岡1-1-2

048-473-5250

<http://www.mune4syo.ed.jp/>

児童数 516名 令和2年1月6日発行



目指す学校像『笑顔・感動いっぱい 虹色に輝く みんなの学校』



## 「感謝」

校長 高柳 政行

新年明けましておめでとうございます。本年も昨年同様に、本校児童と教職員への温かいご支援をよろしくお願い申し上げます。また、児童一人一人の学びの充実のため教職員一丸となって努めてまいりますので、保護者・地域の皆様のご支援・ご協力を重ねてお願い申し上げます。

さて、今年の3月11日は東日本大震災後10年を迎えます。津波で多くの尊い命が奪われた宮城県北部の南三陸町の記録「志津川小学校避難所59日の物語」から、その一部を紹介します。

3月25日頃になると、志津川小学校避難所にとってボランティアの協力と働きがなくてはならないものになりつつあった。とりわけ、物資の搬入やしわけについてはボランティアの力が不可欠であった。「日本全国からいろいろなボランティアの方がきて、アカの他人のためにこんなに一生懸命やってくれるのかってことを一番感じましたね。」と自治会長。そんな中、地元中学3年生だったソウタ君は大人顔負けの対応をしていた。「地域の方々が小学校に避難されていて、何かしなきゃなって思ったんです。・・・一日の終わりに『ありがとう』って言われことや『また明日もよろしく』っていう言葉が一番自分を支えていた」と回想。



3月28日、志津川小学校の特別な卒業式が行われた。前日までに自治会の計画のもと、『子ども達のために、卒業式という晴れの舞台を準備する』という目標を掲げ、避難所関係者500人の老若男女が見事なチームワークで大掃除を行い卒業式の準備を進めた。卒業をさせた担任は、「劇的というとあれですけど、普通ではありえない卒業式だったですね。あたたみがあって、特別な空間だったかなって思いますよね」と述べた。



終末の南三陸町の未来へでは、『感謝と教訓』を伝えている。「私たちは一人では生きていけないことをこの震災で学んだ。これだけの震災でここまで何とかやれたのは世界中の皆様のご支援のおかげ。お世話になった感謝を忘れずに生きていく。これを次の世代にも伝えていくということが人間の姿勢として大切」「私たちが受けた災害については、今後も大地震が予想されるわけで、その方々のためになにかお役にたてることを考えたい」などと結ぶ。

「志津川小学校避難所59日の物語」には、たくさんの「感謝」の気持ちが込められています。一方、復興してきた被災地では、今も傷がいえない方がおられます。また、全国には地震をはじめ、水害などにより多くの方が被災しています。そして、昨年から続く新型コロナウイルス感染症の対応が日々続くなか、感染された方のため、全国の医療関係者が日夜対応してくださっています。被災された方々や感染された方々に心を寄せ、励ましの気持ちを持ち続けるとともに、こうして新年を迎え日々の生活を送ることができることにまず「感謝」しなければと思います。

今年は牛年（丑年）です。丑年は「我慢（耐える）」や「発展の前振れ（芽が出る）」を表す年になると言われています。この一年、「感謝」の気持ちを大切にしながら、緊急事態宣言が発出される我慢の日々にも耐えつつ、目前のことを着実に進めながら良い年になるよう努めていきたいと考えます。